

香川大学大学院地域マネジメント研究科  
**Working Paper Series**  
**ISSN1881-3216**  
**No.1**

**四国の産業の特徴と変化：  
地域経済循環と開放性の観点から**

**高塚 創**

e-mail: takatsuka@gsm.kagawa-u.ac.jp

August 2006

Graduate School of Management  
Kagawa University  
2-1, Saiwai-cho, Takamatsu, Kagawa 760-8523, Japan  
<http://www.gsm.kagawa-u.ac.jp/>

## 要旨

本研究では、主として産業連関表データを用いて、四国の産業の特徴とその変化を分析した。その際に注目した点は「地域経済循環への貢献度」と「開放性」という二点である。前者については、輸移出・輸移入比率や域内購入率によって、後者については本稿で定義される対内力・対外力という指標を用いて計測した。その結果、以下のことが明らかとなった。①四国地域は他地域と比較して開放性が高く、特に製造業については顕著である。また、1990年から2000年までの変化においても、その傾向は強まっており、とりわけ精密機械において顕著である。②しかし、県別に見ると開放性の変化は一様ではなく、大幅に上昇しているのは徳島県であり、香川県は流通をはじめとするサービス業を中心に、大幅に低下させている。③地域経済循環への貢献度については、四国全体で見れば、農業、漁業、パルプ・紙・紙加工品、非鉄金属、製材・木製品、および運輸が高い。④貢献度の高い産業を県別に見た場合には、愛媛では製造業、高知では農業、漁業というように違いが見られる。また、流通をはじめとするサービス業における香川の優位性は（開放性と同様）低下しており、その原因としては明石・しまなみ等の交通基盤整備の影響が考えられる。